

イチジク^{かぶがれびょう}株枯病の簡易検出 「枝挿し法」の開発

～生産者が自ら確実に取り組める病害診断法～

連携機関 | 農業技術指導所

研究期間 | 平成20～22年度[県費研究(開発研究)]



研究開発のきっかけ

- ◆ イチジクの株枯病(かぶがれびょう)は樹体を枯死させるため、イチジク産地で最も警戒されている土壌病害です。
- ◆ 株枯病の診断は、専門機関で罹病樹近辺の土壌から菌を分離して確認しなければできませんでした。
- ◆ そこで、生産者自らが簡易に実施可能で早期診断に使える方法が求められていました。



株枯病で枯死したイチジク

研究成果の概要

- ◆ イチジクのせん定枝を用い、簡易な処理により肉眼で判別できる「枝挿し法」を開発しました。
- ◆ 検査したい圃場の土壌に枝を一定期間挿し込み(①)、その後、土壌から抜き取った枝をプラスチック袋に入れて培養します(②)。株枯病の場合は、特徴的な菌の形態が肉眼で確認できます(③)。



①30cm枝を土壌に挿す

②抜き取った枝を、プラスチック袋で培養(25℃で10日間)

※湿らせたティッシュペーパーで湿潤状態に保つ



③株枯病菌の有無を確認

【特徴1】淡い黄色の塊(子のう胞子塊)

【特徴2】黒い髪の毛状突起(子のう殻)

研究成果の活用状況

- ◆ 現在、農業技術指導所と連携し、県内2地域の生産現場で本成果の現地適応性を調査しています。
- ◆ 今後、本成果は、育苗圃場の病害診断に活用され健全な苗木の生産体制を支え、着実なイチジク産地の拡大に貢献します。